会報第一号は昭和六十三年（一九八八年）三月二十九日発行

西江原 史跡顕彰会報

第 65 号
令和4年4月5日

いま一度見つめ直して歩みたい 間違いのないしっかりとした道

西江原史跡顕彰会会長　落合清三

はじまりから三十五年間続けて来た顕彰会の道筋をたどりながら現在の時代の大きな変化にどのように対応したらいいのか倫理観・価値観・何歳まで仕事ができるのか・地域社会とのかかわりはどのようにするのか等、あらゆる項目について検証していかなければならないような気がします。私たちの顕彰会も高齢化になっておりますし会員数も二百人を割ってきています。

そのような中でみんなで話し合いができれば道も開けてくるのではないかと感じています。

西江原史跡顕彰会の始まりは、昭和六十二年一月十一日でした。今から三十五年前のことになります。(会員数は四四一名です)

その後の活動は平成二十七年二月二十日発行の「ふるさとの絆 ― 西江原の歴史再発見」をご参照ください。(ページ数一五五)ご参考までに編集の方針を記入しておきます。

編集の方針

一、記事や玉稿の掲載は、会報の文面そのままとする。

二、記事の内容を次の五つの項目に分類整理する。ただし、関連のある事項については項目が違っていてもまとめて掲載する。

第一章　神社・仏閣に関すること
第二章　史跡・文化財に関すること
第三章　人物に関すること
第四章　記念講演に関すること
第五章　他地域とのつながりに関すること

これ以外の行事として年一回の北条早雲供養祭・那須与一公追善法要祭及び袖神稲荷夏季大祭・会報発行年二回・史跡顕彰板九件設置・史跡顕彰柱十一件設置・小菅城址草刈り作業（年一回）・西江原ふるさと探検のガイド（四～五人）等の事業を行っています

ここで新しい事業報告をいたしたいと思います。

以前から申し上げておりましたから、お分かりの方もおられるかもしれませんがボランティアガイドクラブを急遽試験的に立ち上げることといたしました。

経過過程

大河ドラマ「青天を衝け」渋沢栄一ゆかりの地ＰＲ活動実行委員会が設立され、令和三年七月十日より三回にわたってボランティアガイド養成についての研修等を行いました。

令和三年七月十九日、地場産業振興センターで旅行会社・市役所観光課と打ち合わせを行いました。

七月～十月まではコロナ禍により予定はすべてキャンセルとなったが、十一月十三日・十四日・二十三日・二十七日に観光客が来井しました

十一月に入るとコロナ禍も一段落して実地のガイド研修ができました。

もちろん研修の基本である基礎知識は学ばないとだめですが一生懸命やる姿に心優しく応援してくださり、がんばれよと声をかけて励ましてくださる方もおられました。

西江原ふるさと探検

令和三年十月十六日（土）興学会と青少年を育てる会主催で「西江原ふるさと探検」が実施されました。西江原小学校で出発式が行われ、顕彰会会員の紹介後、正雲寺へ向かいました。

お寺が建てられたのは（一二四八）年で真言宗の寺、瑞龍山正雲寺といい、本尊様は聖徳太子、本山は京都の世界遺産、密教真言宗東寺です。住職の宮本さんから正雲寺の歴史を聞いた後、長谷山法泉寺へ向かいました。

法泉寺境内では住職夫人の先納いづみ様から、法泉寺と伊勢新九郎との関係、法泉寺の塀の造りについて、説明をいただき、子供たちは真剣に聞いていました。

その後亀迫城山へ向かい、頂上の城址へ到着、役員の方から説明を聞き、此の城は約（四九八年）前、毛利の家臣が在城し、此の城から甲山南麓、山陽道またいで小田川を渡り、対岸高月丘陵にかけて延々と柵を築いて山陽道を塞ぎ、東方の諸城の攻撃を続けたという。更に甲山と亀迫城山は続いていたともいう。廃城は、慶長五年関ケ原の戦いに敗れ、毛利氏が領土を削減された後と言われているが、諸説もある。次に参加した、児童の感想文を記載します。

● 三年　男児

ぼくは、法泉寺で話を聞きました。屋根の棟の高さが一二〇センチあると教わったので見たら、見た目とは違うなあと思いました。法泉寺の上にある得脱稲荷にあがると、お話に聞いたように、甲山にかさなって向こうからだと、ひとつも見える気がしませんでした。逆に、甲山がなかったのでむこうからすっぽり見えた感じでした。

● 三年　男児

法泉寺は、いくさの時の隠れ家だったようです。なぜかというと、山陽道からだと、かぶと山と城山で法泉寺は見えないからです。ぼくはこの話を聞いて、昔のことが想像できました。

● 五年　女児

正雲寺についてお話を聞きました。さいごにお菓子やジュースを頂いてとてもうれしかったです。お寺を回ったり城山公園で鬼ごっこをしたりしました。少しつかれたけれどいろいろなことを知ることができました。

● 五年　女児

昔、亀迫城山公園の頂上には小さなお城があり、敵が来たら知らせていたと聞きました。かぶと山とつながっていたことを知ってびっくりしました。西江原町にもこんなみりょくがあるんだなと思いました。

● 四年　男児

まず、正雲寺にいきました。その後、法泉寺・得脱稲荷に行って、最後に亀迫城山公園にいきました。バス旅行の次の日だったのでつかれたけど、楽しかったです。次もまた参加したいです。

● 五年　男児

大人の人たちと西江原町の史跡めぐりをしました。正雲寺では、お寺の説明を聞きました。

法泉寺では、お寺の説明を聞いて得脱稲荷に登りました。亀迫城山公園では、山のてっぺんに登って話を聞きました。法泉寺で聞いた、参道がくねくねしているということが楽しかったです。くねくねしている理由は、すぐに敵が攻めてこられないようにしているからでした。それを聞いて、ぼくは、なるほどと思いました。

正　雲　寺

正　雲　寺

法　泉　寺

興譲館の紅梅
阪谷朗廬　お手植えの梅

小菅城趾進入路の草刈り作業

令和三年十月三十日（土）に賀山の小菅城進入路付近から小菅城址までの間の草刈り作業をしました。

当日は暖かく天候にも恵まれ、軽快なエンジン響かせながら作業を行いました。

今年も新型コロナウイルスの為に与一公追善法要並びに袖神稲荷大祭を開催することが出来ず、この草刈り作業のみを行いました。

史跡顕彰会の会員とボランティアガイドの募集について

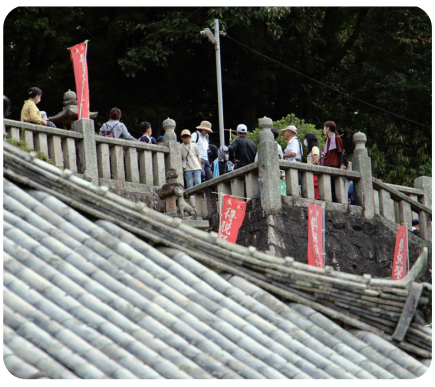
史跡顕彰会の在り方としては、西江原町内外を問わず新規会員の増加を願い、更に多くの方々との繋がりを広げ、活動を開始します。

令和三年度七月より、西江原史跡顕彰会は、西江原ボランティアガイドを立ち上げました。人生百年の時代です。皆さん一緒に楽しく活動してみませんか。観光ボランティアガイドを募集しています。参加希望の方は、西江原史跡顕彰会まで、ご連絡をお待ちしています。

（西江原公民館内）

早雲公供養祭並びに顕彰会総会について

本年度も「早雲公供養祭並びに顕彰会総会」はコロナ禍の為、来賓を招いての供養祭は中止し、役員のみで令和四年四月二十九日（金）に午前十時より法泉寺で行います。



得脱稲荷神社

観光ボランティアガイドを通して思うこと

沖　久教人

人は何のために旅をするのでしょうか。時代の移り変わりや、昨今の世界情勢によって、旅に対する考え方が大きく変わってきています。豊かさへの価値観が変わってきているとも言えます。

観光産業は、幅広く他産業ともつながって地域経済を支える大きな柱となっています。また、地域の資源を利用して広く経済効果を得る仕組みが観光であると考えられています。したがって、「資源の所有者＝地域住民」と考えれば、住民に幸福をもたらす産業が観光でなければならないと思います。

そのためには、自ら持つ資源を有効に活用できるような「観光まちづくり」を行っていく事が重要だと思います。景観を整え、散策路や古民家を整備するハードの事業、観光を担う人財の育成やコンテンツの商品化のようなソフト事業、これら全てが「観光まちづくり」に関わっているのではないでしょうか。

観光まちづくりが上手くいっているところには観光客が継続的に訪れ、民間の投資先としても有望、海外からの投資も期待でき、観光で豊かな地域を、そして住民の幸福を実現できるのではないでしょうか。まさに、「住んでよし」「訪れてよし」「受け入れてよし」の三方よしの考え方であると思います。

経済的な価値、交流による新たな価値への気づきやシビックプラウドの醸成、コミュニティ育成など、地域主体でマネジメントを行う誇りあるまちづくりにしていくためにも、子どもたちをはじめ年齢や世代、人種を超えた新たな組織づくりを皆様とともに考えていきたいと思います。

最後になりましたが、はじめて観光ボランティアガイドをさせていただき、改めて時間を共有することの大切さを学ばせていただきました。

事前準備でたくさんの先輩方と多くの学びを共有させていただきましたことについて、心よりお礼申し上げます。